

2010年8月5日

コンサベーション・インターナショナル

現地からのお便り

森林再生事業の進捗

2010年4月～6月は、植林した苗木の維持に重点をおいて活動を実施しました。定期的に見廻りを行い、枯れてしまった苗があった場合には、新しい苗に植え替えています。

2010年7月から始まるプロジェクト第三期は、50ヘクタールへの植林を予定しています。第三期を向かえるに先立って、植林予定地の調査を開始しました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

看板設置記念式典

2010年6月24日、ダイキン工業のエアコンを通じて環境へ貢献されているお客様の名前の入った看板を設置する記念式典を開催しました。地元政府をはじめ、国立公園、大学、NGO、日本の国際援助機関、地元コミュニティ、生徒、メディアから100人を超える人々が参加し、和やかな雰囲気の中で約2時間の式典を行いました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

看板は、キャッサバ畑とウモロコシ畑の間を抜け、国立公園の敷地に入ったところにある見晴らしの良い広場に設置されました。西には第一期の植林地があり、東には第三期の植林予定地が広がっています。また、プロジェクトでつくった苗畑にも近く、植林地管理や農作業のため、地元の方々がときおり行き来します。

7月から第三期を迎えるにあたって、式典参加者全員で記念植樹も行いました。木を植えた子供たちが大きくなるころ、大きく育った木が気持ちのよい木陰をつくりだし、そして森を動物が行き来するようになることでしょう。



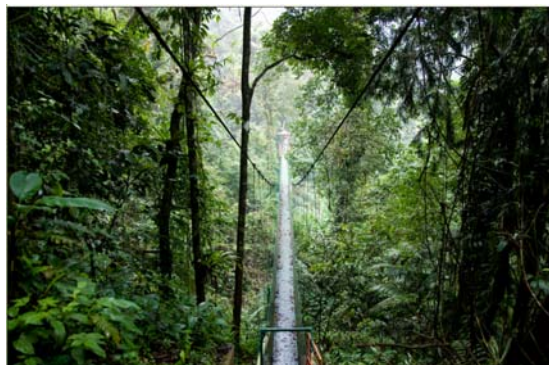
(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

エコツーリズム

ダイキンの森の近くにあるポドゴール環境センターは、自然環境管理、環境教育、エコツーリズムの面で先駆的な取り組みが注目を集め、年間約 2000 人が訪れる場所です。訪れた人は、森の中を歩きながら、ガイドの語る伝統的な植物の利用方法や興味深い生物の物語を聞き、甘い果実を味わい、ジャワギボンや様々な鳥の鳴き声に耳を澄ませ、野性動物の姿に目を凝らします。プロジェクトでは、センター内の説明板の設置やガイドの育成を支援するとともに、地元の学校を招き、子供たちに自然を守ることの大事さを伝えています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。